

だいせつぎんのすがお

大雪山の素顔

山岳ガイド、旭岳ビジターセンター、自然解説員などで活躍する人たちをリレーしています。高山植物、紅葉、雪、動物など「自然の大博物館」といわれる大雪山の素顔が見えてきます。

旭岳温泉のチシマザクラ

日本は桜の国。毎年春になると「桜前線の北上」に多くの方がワクワクし、身近な場所での開花を心待ちにします。

6月、標高およそ1,100メートルの旭岳温泉にも桜前線がやって来ます。旭岳温泉街で「桜」といえば「チシマザクラ(千島桜)」のこと。北海道と本州北部の高山に分布する野生の桜で、日本で最も開花が遅い桜として知られています。チシマザクラが咲くころは、周囲のダケカンバやナナカマドも一斉に葉を開きはじめ、初夏の訪れを感じます。

ビジターセンターで仕事をしていると、このチシマザクラが「最も遅い」だけではなく、「最も美しい」桜に見えるようになってしまいました。半年も続く雪の季節を過ごした連帯感でしょうか。それとも、静かな森で控えめに咲く姿がそう思わせるのでしょうか？

特に理由を探さなくても「うちの前の桜が一番」と感じるのは、全国どこも一緒かもしれないですね。

チシマザクラの樹高は、成長しても3~5メートル

根元から細い幹がたくさん出る樹形になります。幹は曲がっているものも多いため、タカネザクラの変種とされる場合が多く、微妙な違いがあります。



程度。一つ一つの花の大きさや形は、大木になる桜とほとんど同じです。よく見慣れている桜の満開の様子に比べて花数が少なめで控え目に咲いているように見えるでしょう(日当たりが良い場所では、暗めの場所より花数は多いですが)。

花の色は、白色から桃色のやや濃いものまでさまざまです。花びらに透明感があり、新緑の中で咲いていると木漏れ日が揺れているようにも見えます。

旭岳温泉街の周辺というごく狭い範囲でも、場所(あるいは株)によって開花時期に差があり、おもしろく感じます。毎年3週間前後に渡って、ここ温泉街のどこかで花を見られるのではないのでしょうか。一般的に桜は一斉に咲いて散っていくイメージがあります。でも山のチシマザクラの場合は育つ環境が多様なためか、ちょっと不揃い(?)。その分長く楽しめます。

ロープウェー山麓駅近くの植栽地が見やすいですが、自然探勝路で見つける自生のものも心に残ります。ぜひ探してみてください！

旭岳ビジターセンター 田上千尋

俳句

五月晴ふとクレヨンの句ひけり	老木の桜の意地や一枝咲く	吾も妹も五月晴の日生を受く	定年の先輩おくる桜かな	お茶点る客は薫風招きたり	山桜ひふみと数ふ里居かな	月も出て水にかげろふ桜かな	耳あてて樺の息吹きを聴く子かな	夕焼けの色に問われし忘れもの	友からの一句嬉しき五月晴れ	人の死のうたがはずしてさくら散る	稜線を碧々と見せ五月晴	祝詞よむ若き神官五月晴	踊子草たそがれ誘ふ庭のさま	降誕会甘茶注ぎし無我の境	初あんよ笑顔はじける五月晴
徳光吐苦	杉山りつ	山口佐知子	若田久	高瀬潤	石澤清宏	澤田久美子	松山蓉子	三島智	若田郁	秋山深雪	長谷川きみゑ	小林ろば	高橋公花	杉山ひろのり	保科なほ

